

「二〇二三年度「後藤新平の会」シンポジウム」 関東大震災一〇〇周年

# 「衛生の道」からみた関東大震災



〈パネリスト〉

青山 侑

明治大学名誉教授、本会代表幹事

春山 明哲

早稲田大学台湾研究所招聘研究員

伏見 岳人

東北大学法学部教授

藤森 照信

江戸東京博物館館長・東京大学名誉教授

渡辺 利夫

拓殖大学顧問・東京工業大学名誉教授

〈コーディネーター〉

橋本 五郎

読売新聞特別編集委員

【日時】 2023年7月8日(土)

第Ⅰ部 「後藤新平賞」授賞式 10:30 開場 / 11:00 開会  
第Ⅱ部 シンポジウム 13:30 開会 (16:30 終了予定)

【会場】 日本プレスセンターホール (定員先着 200 名)  
(東京都千代田区内幸町2丁目2-1)

【入場料】 一般 3000 円 学生 1500 円 (授賞式は無料)

【主催】 後藤新平の会 【後援】 藤原書店

【申込み・問合せ】 後藤新平の会事務局

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523 藤原書店内

電話03-5272-0301 FAX03-5272-0450 <http://goto-shimpei.org/>

内閣不在時に、帝都東京を突如襲った大地震——関東大震災。国家存亡の危機に瀕して、後藤新平が描いた復興ビジョンとは!?



**青山侑 Aoyama Yasushi**

1943年生まれ。明治大学名誉教授、後藤新平の会代表幹事。都市論、日本史人物論、自治体政策。1967年都庁入庁。1999～2003年、石原慎太郎知事の許で東京都副知事。著書に『世界の街角から東京を考える』(藤原書店、2014年)、郷仙太郎名義で『小説 後藤新平』(学陽書房、1999年)などがある。



**春山明哲 Haruyama Meitetsu**

1946年生まれ。早稲田大学台湾研究所招聘研究員、日本台湾学会名誉理事長。後藤新平の会幹事。近代日本・台湾関係史、図書館文化史。元国立国会図書館専門調査員。著書に『近代日本と台湾——霧社事件・植民地統治政策の研究』(藤原書店、2008年)他がある。『後藤新平の会会報』に後藤新平関係の論文を多数寄稿している。



**伏見岳人 Fushimi Taketo**

1979年生まれ。東北大学大学院法学研究科教授。日本政治外交史。著書に『近代日本の予算政治 1900-1914』(東京大学出版会、2013年)、訳書にシーラ・スミス著『日中 親愛なる宿敵』(共訳、東京大学出版会、2018年)がある。また、オンライン版『後藤新平文書』(丸善雄松堂、2021年)の監修・解題を担当。



**藤森照信 Fujimori Terunobu**

1946年生まれ。東京大学名誉教授、工学院大学特任教授。東京都江戸東京博物館館長。専門は、日本近現代建築史、自然建築デザイン。日本建築学会の建築歴史・意匠委員会委員を歴任。『明治の東京計画』(1982年)、『日本の近代建築』(1993年、いずれも岩波書店)、他著書多数。



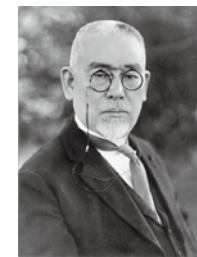
**渡辺利夫 Watanabe Toshio**

1939年生まれ。東京工業大学名誉教授、拓殖大学顧問、公益財団法人オイスカ会長。日本李登輝友の会会長。一般社団法人高齢者活躍支援協議会会長。専門は開発経済学と現在アジア経済論。著書は多数あるが、近年の後藤新平関係のものとして、『後藤新平の台湾——人類もまた生物の一つなり』(中公選書、2021年)がある。



**〈コーディネーター〉橋本五郎 Hashimoto Goro**

1946年生まれ。読売新聞論説委員、政治部長、編集局次長を歴任し06年より特別編集委員。主著に『龍は歴史にあり』(2010年)、『「二回半」読む 書評の仕事 1995-2011』(2011年)、『宿命に生き 運命に挑む』(2018年)、『虚心に読む 書評の仕事 2011-2020』(2020年、いずれも藤原書店)。



後藤新平とは……  
一八五七年、水沢(現岩手県奥州市)の武家に生まれ、藩校をへて福島須賀川医学校卒。一八八〇年(明治13)、弱冠23歳で愛知県病院長兼愛知中学校長に。板垣退助の岐阜遭難事件に駆けつけ名を馳せる。八三年内務省衛生局に。九〇年春ドイツ留学、帰国後衛生局長。相馬事件に連座し衛生局を辞す。日清戦争帰還兵の検疫に手腕を発揮し、衛生局長に復す。九八年、児玉源太郎総督の下、台湾民政局局長後に民政長官に。台湾近代化に努める。一九〇六年九月、初代満鉄総裁に就任、満鉄調査部を作り満洲経営の基礎を築く。〇八年夏より第二次・第三次桂太郎内閣の通相。その後鉄道院総裁・拓殖局副総裁を兼ねた。一六八年秋、寺内内閣の内相、一八年春外相に。二〇年暮東京市長となり、腐敗した市政の刷新、市民による自治の推進、東京の近代化を図る。「八億円計画」を提唱。二二年秋アメリカの政治学者ピアードを招く。二三年春、ソ連極東代表のヨッフエを私的に招き、日ソ国交回復に尽力する。二三年の関東大震災直後、第二次山本権兵衛内閣の内相兼帝都復興院総裁となり、再びピアードを緊急招聘、大規模な復興計画を立案。政界引退後は、東京放送局(現NHK)初代総裁、少年団(ボーイスカウト)総長を歴任、「政治の倫理化」を訴え、全国を遊説した。一九二九年遊説途上、京都で死去。

今春、藤原書店から「別冊『環』 後藤新平——衛生の道 1857-1929」が刊行されました。  
二〇〇四年に、『決定版』正伝 後藤新平』(全八分冊・別巻一)を皮切りに、「後藤新平の全仕事」と銘打ったシリーズの刊行が開始されてから、十九年の歳月が経過しました。私たちは、この間に後藤新平の真髓をようやく発見しました。医学を志した後藤新平がドイツ留学の中で修得した「衛生学」という全体知、すなわち「衛生の道」こそ、後藤が晩年に至るまで貫いた哲学なのです。今年の当会シンポジウムは、一〇〇年前に突如首都東京を襲った関東大震災において、内閣が組閣されていない状態の中で、後藤新平がどう対応し施策を講じたのか、そこから今われわれが何を学ぶべきかについて、この「衛生の道」を軸として、討論する場を設けることに致しました。皆さまのご参加をお待ちしております。

■第17回「後藤新平賞」授賞式

本賞 石井幹子 様 (照明デザイナー)



写真提供(株)石井幹子デザイン事務所

〈式次第〉  
11時開会  
主催者挨拶  
賞贈呈  
受賞者講演  
12時閉会(予定)  
後援 読売新聞社

- 後藤新平の政治的・思想的遺書! 二七五〇円
- 後藤新平 国家とは何か 二七五〇円
- 楠木實道II編・解説(原著『憲法と政治倫理』政教社、一九二七年) 二四二〇円
- 後藤新平 政治の倫理化 二四二〇円
- 後藤新平研究会編 解説II新保祐司 二四二〇円
- 後藤新平 国難来 鈴木一策II編・解説 一九八〇円
- 後藤新平の劇曲平和 加藤陽子解説 二九七〇円
- 後藤新平〇案 平木白星〇述 二九七〇円
- シリーズ 後藤新平とは何か 自治・公共・共生・平和
- 後藤新平歿八十周年記念事業実行委員会編 後藤新平の著書から精選した文章を現代語訳で読む 二四二〇円
- 自治 鶴見俊輔 塩川正十郎 片山善博 養老孟司 二四二〇円
- 官僚政治 後藤新平 三〇八〇円
- 寄稿 御厨貴 五十嵐敬喜 尾崎謙 神原英資 増田寛也
- 都市デザイン 後藤新平 三〇八〇円
- 寄稿 青山侑 陣内秀信 鈴木博之 藤森照信 田中重光 西澤泰彦
- 世界認識 後藤新平 三〇八〇円
- 寄稿 井上寿一 小倉和夫 佐藤優 V・モロジャコフ 渡辺利夫
- 時代の先覚者・後藤新平(1857-1929) 御厨貴編 三五二〇円
- 後藤新平の「仕事」 藤原書店編集部編 [附]小伝 後藤新平 一九八〇円
- 震災復興 後藤新平の120日 (都市は市民がつくるもの) 後藤新平研究会編著 二〇九〇円
- 一人二人に三人に人 (近代日本と「後藤新平」山脈100人) 後藤新平研究会編 二八六〇円
- 後藤新平と五人の実業家 (渡沢栄一・益田孝・安田善次郎・大倉喜八郎・浅野総一郎) 後藤新平研究会編著 二七五〇円
- 〈決定版〉正伝 後藤新平 (全八分冊別巻一) 鶴見祐輔著/一海知義校訂 全巻+別巻 計五九八四〇円
- 別巻 後藤新平大全 五二八〇円
- 後藤新平の全貌が見渡せる便覧。

- 〔近刊〕 後藤新平日記 ①明治篇 後藤新平日記研究会編 解説II千葉功 伏見岳人 はしがきII加藤陽子 予八八〇〇円
- \*表示の価格は税込定価